



がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計報告 背景：院内がん登録の位置づけ

国立研究開発法人 国立がん研究センター
がん対策情報センター がん登録センター



がん登録の種類について

	施設ベース	地域ベース (Population-based)	
	院内がん登録	地域がん登録	→ 全国がん登録
実施主体	国・医療機関	都道府県	国・都道府県
集計対象	がん診療連携拠点病院等で診断したがん (指定要件)	全国47都道府県内の病院及び診療所で診断したがん	全国の病院及び指定された診療所で診断したがん (義務)
集計結果	拠点病院の診療実績	都道府県及び全国での推計罹患数・率	都道府県及び全国での実測罹患数・率
主たる集計目的	拠点病院の実態把握と医療の質向上、医療機関選択	罹患数の把握 国及び都道府県のがん対策	罹患数の把握 国及び都道府県のがん対策
集計開始	2007年	1951年	2016年
最新集計	2015年診断 427施設 702,866例	2012年診断 47都道府県 865,238例	これから (2018年末～)

院内がん登録の実施根拠

- ～2015
- 「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」
(がん診療連携拠点病院等の指定要件)
 - ・標準登録様式に基づく実施
 - ・がん登録実務者の配置、研修参加
 - ・国立がん研究センターへの情報提供
 - ・地域がん登録事業等に必要の情報提供
-
- 2016～
- 「がん登録等の推進に関する法律」
院内がん登録の実施に係る指針
上記に加え、
 - 意義、体制、品質管理、生存状況確認
 - 個人情報扱いなどを明文化



院内がん登録の位置づけ-1

平成28年1月1日施行

▶がん登録等の推進に関する法律第四十四条第一項

専門的ながん医療の提供を行う病院、その他の地域におけるがん医療の確保について重要な役割を担う病院の開設者及び管理者は、厚生労働大臣が定める指針に即して院内がん登録を実施するよう努めるものとする

平成27年12月15日公布

▶院内がん登録の実施に係る指針(厚生労働省告示第四百七十号)

院内がん登録とは、
「**病院において、がん医療の状況を適確に把握するため、当該病院におけるがん患者について、全国がん登録情報よりも詳細な治療の状況を含む情報を収集し、院内がん登録データベースに記録し、及び保存すること**」



院内がん登録の位置づけ-2

平成27年12月15日公布

▶ 院内がん登録の実施に係る指針(厚生労働省告示第四百七十号)

院内がん登録データベースの活用により、以下の効果が期待される

1. 病院において、当該病院において診療が行われたがんの罹(り)患、診療、転帰等の情報を適確に把握し、治療の結果等を評価すること及び他の病院における評価と比較することにより、がん医療の質の向上が図られること
2. 国立研究開発法人国立がん研究センターにおいて、院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うことにより、専門的ながん医療を提供する医療機関の実態把握に資すること
3. 病院や国立がん研究センターにおいて、院内がん情報等を適切に公表することにより、がん患者及びその家族等の医療機関の選択等に資すること
4. 行政において、前号に基づき公表された院内がん情報を活用し、がん対策の企画立案やがん医療の分析及び評価を行うことにより、がん対策の充実が図られること



がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計報告

国立研究開発法人 国立がん研究センター
がん対策情報センター がん登録センター
院内がん登録室



がん診療連携拠点病院等院内がん登録2015年全国集計

- 2007年全国集計報告書より、毎年実施、9回目の報告
- 2015年診断例について、がん診療連携拠点病院等（調査時）427施設の約70万件のデータを集計
全国集計：がん診療連携拠点病院
- 都道府県からの推薦に基づき、がん診療連携拠点病院以外で院内がん登録を実施しているがん診療施設318施設
約23万件のデータを集計
全国集計：都道府県推薦病院
- 小児がん拠点病院6施設からの登録データを収集し、がん診療連携拠点病院の登録データを合わせ、全小児がん拠点病院15施設のデータを収集
全国集計：小児がん拠点病院



参考:院内がん登録における登録対象

自施設で診断 または 他施設で既に診断されたのち
自施設を初診した、
全悪性新生物(がん)及び頭蓋内の良性及び良悪性不詳の腫瘍

各施設における登録対象

- ▶登録を実施する自施設での新規の診断患者または他施設で診断後に自施設を初診した患者であり、初発例、再発例含む
- ▶また、治療を行わない経過観察例も含まれる



全国集計：がん診療連携拠点病院

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

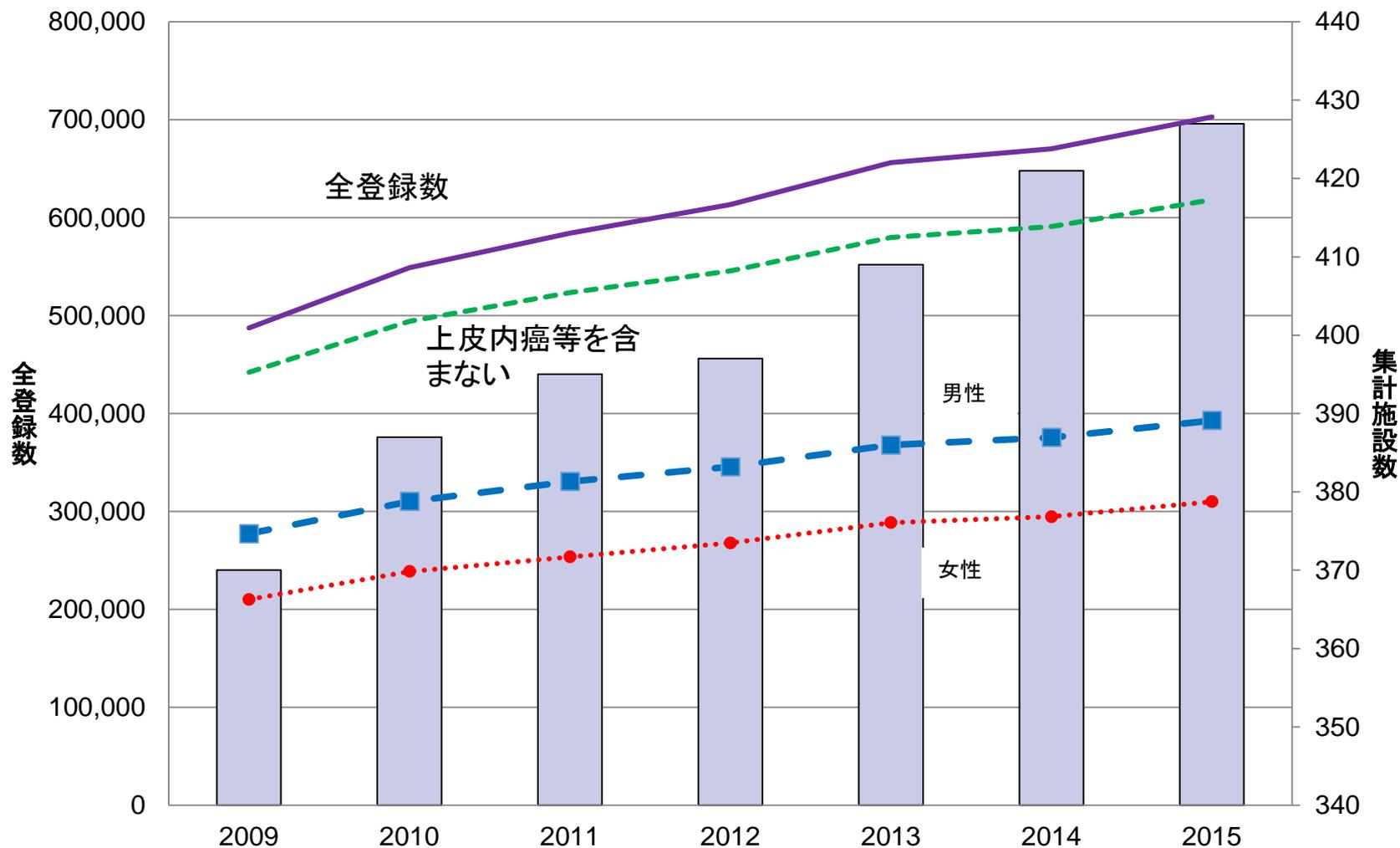
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
拠点病院数(調査時)	377	388	397	397	409	422	427
集計対象施設数	370	387	395	397	409	421	427
全登録数(*集計対象)	487,441	548,979	584,120	613,377	656,272	670,205	702,866*
男性	277,350	310,265	330,597	345,570	367,761	375,606	392,880
女性	210,091	238,714	253,523	267,807	288,511	294,599	309,986
上皮内癌等を含まない	442,060	494,261	523,383	545,726	579,908	590,916	618,354
1施設当たりの全登録数							
中央値	1,150	1,251	1,313	1,363	1,398	1,402	1,440
最小値	155	168	162	175	158	119	119
最大値	8,866	8,620	8,174	8,617	9,339	9,147	9,973
症例区分8を除く集計登録数	471,827	530,363	563,422	590,856	629,491	643,480	675,314
(全登録数に占める割合)	(96.8)	(96.6)	(96.5)	(96.3)	(95.9)	(96.0)	(96.1)
症例区分2, 3のみ	403,996	451,058	475,924	497,725	527,117	539,064	565,029
(全登録数に占める割合)	(85.6)	(85.0)	(84.5)	(84.2)	(80.3)	(80.4)	(80.4)
(参考)							
地域がん診療病院及び特定領域がん 診療連携拠点病院を除く全登録数	-	-	-	-	654,745	661,322	702,866
中央値					1,413	1,447	1,515
最小値					158	169	182
最大値					9,339	9,147	9,973

(症例区分2, 3: 自施設初回治療開始例、症例区分8: セカンドオピニオン等その他)



全国集計：がん診療連携拠点病院

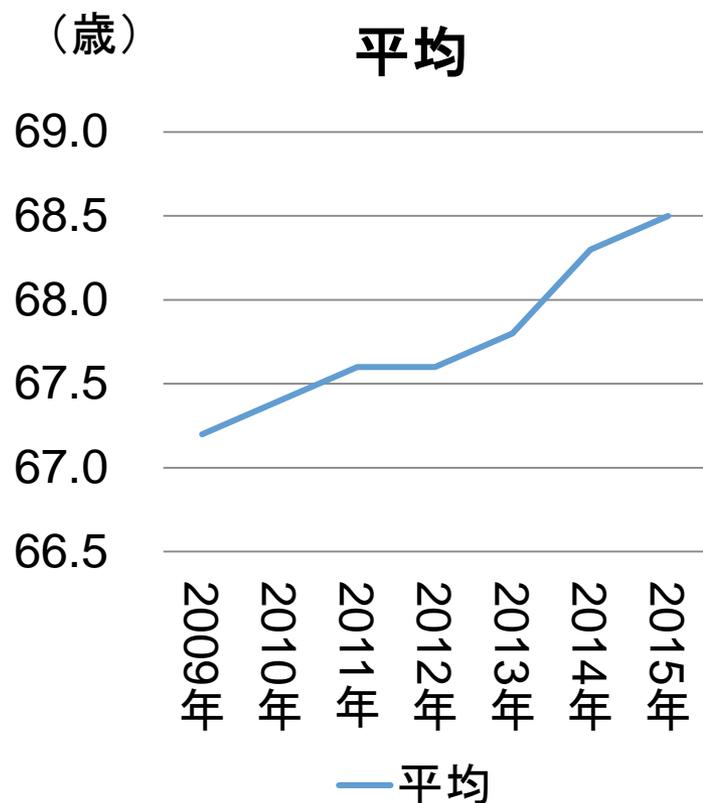
がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計



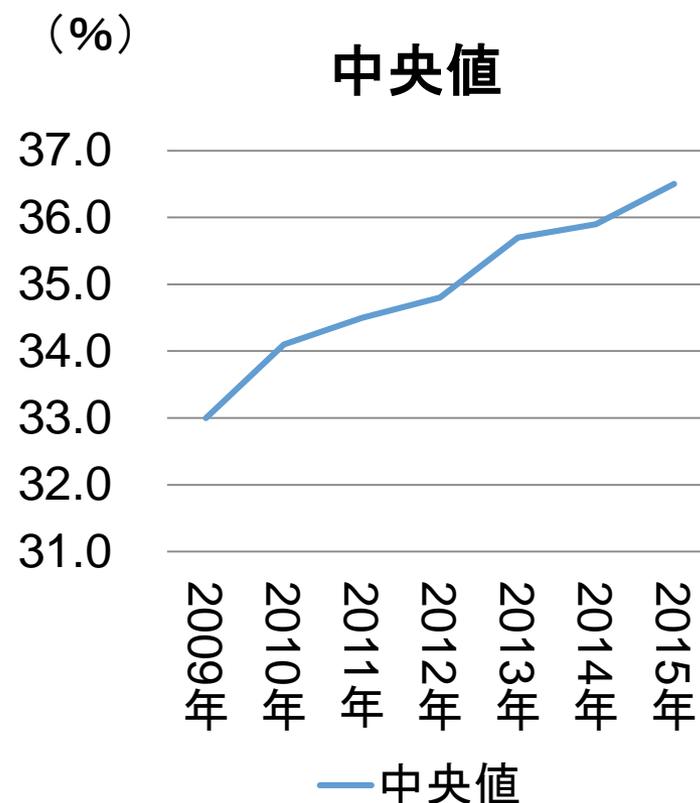
がん診療連携拠点病院等院内がん登録2015年全国集計

全国集計：がん診療連携拠点病院

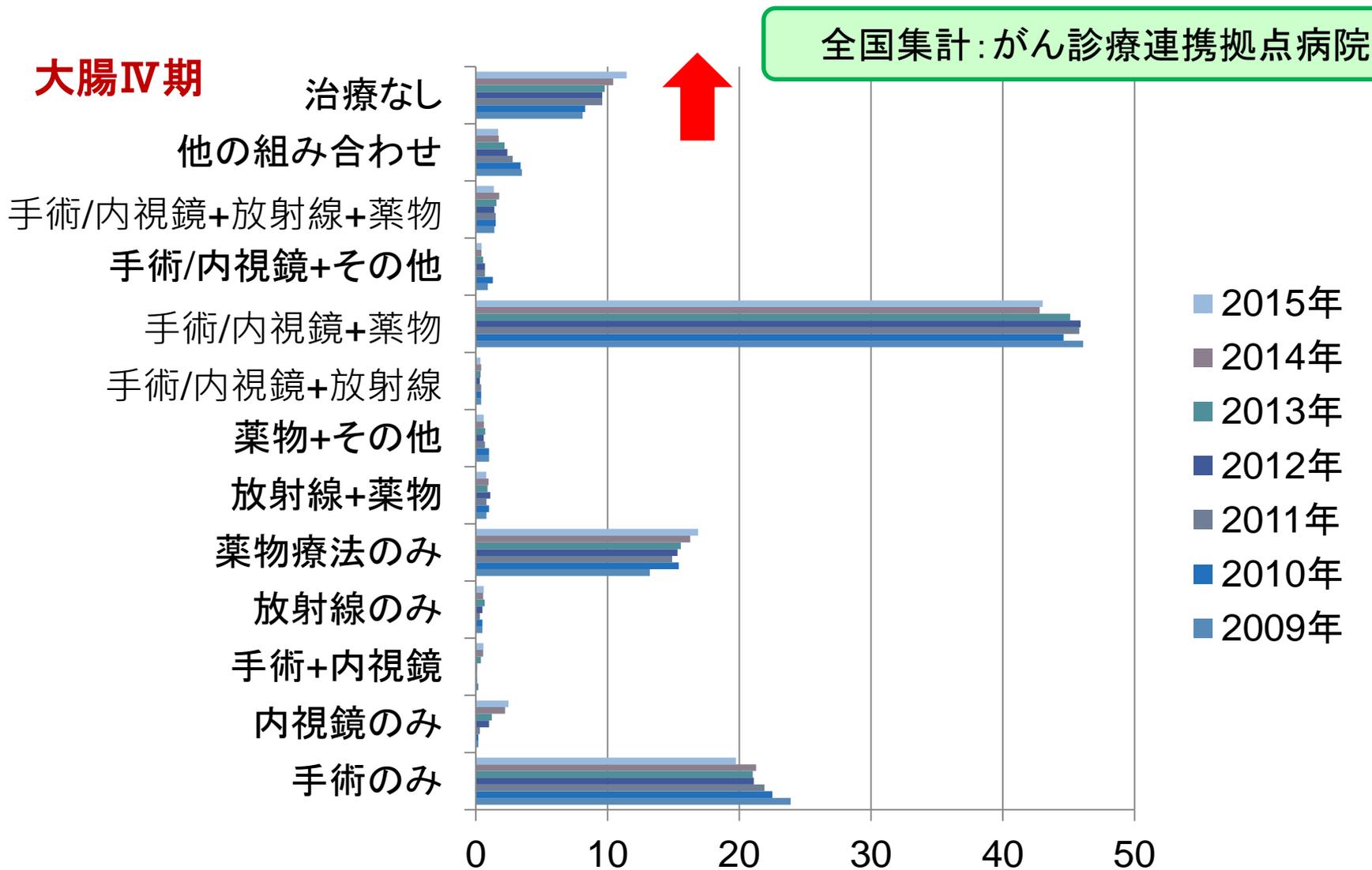
登録患者の施設別平均年齢の推移



施設別にみた75歳以上の登録患者の割合の推移



がん診療連携拠点病院等院内がん登録2015年全国集計





がん診療連携拠点病院等院内がん登録2015年全国集計

全国集計：都道府県推薦病院

	県推薦病院					拠点病院	2015年
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年		合計
施設数(調査依頼)	-	298	309	335	324	427	-
集計対象施設数	155	236	284	306	318	427	727
全登録数(*集計対象)	89,085	152,746	174,123	207,841	229,393*	702,866*	878,046*
中央値(1施設当たり)	501	585	586	623	644	1,440	-
最小値(1施設当たり)	46	41	20	16	15	119	-
最大値(1施設当たり)	2,427	2,722	1,765	4,113	3,710	9,973	-
症例区分8を除く集計登録数	88,060	150,173	171,337	203,547	224,832	675,314	847,027
(全登録数に占める割合)		(98.3)	(98.4)	(97.9)	(98.0)	(96.1)	(96.5)
症例区分2と3のみ	73,296	124,299	140,775	164,786	179,081	565,029	703,850
(全登録数に占める割合)		(81.4)	(80.8)	(79.3)	(78.1)	(80.4)	(80.2)



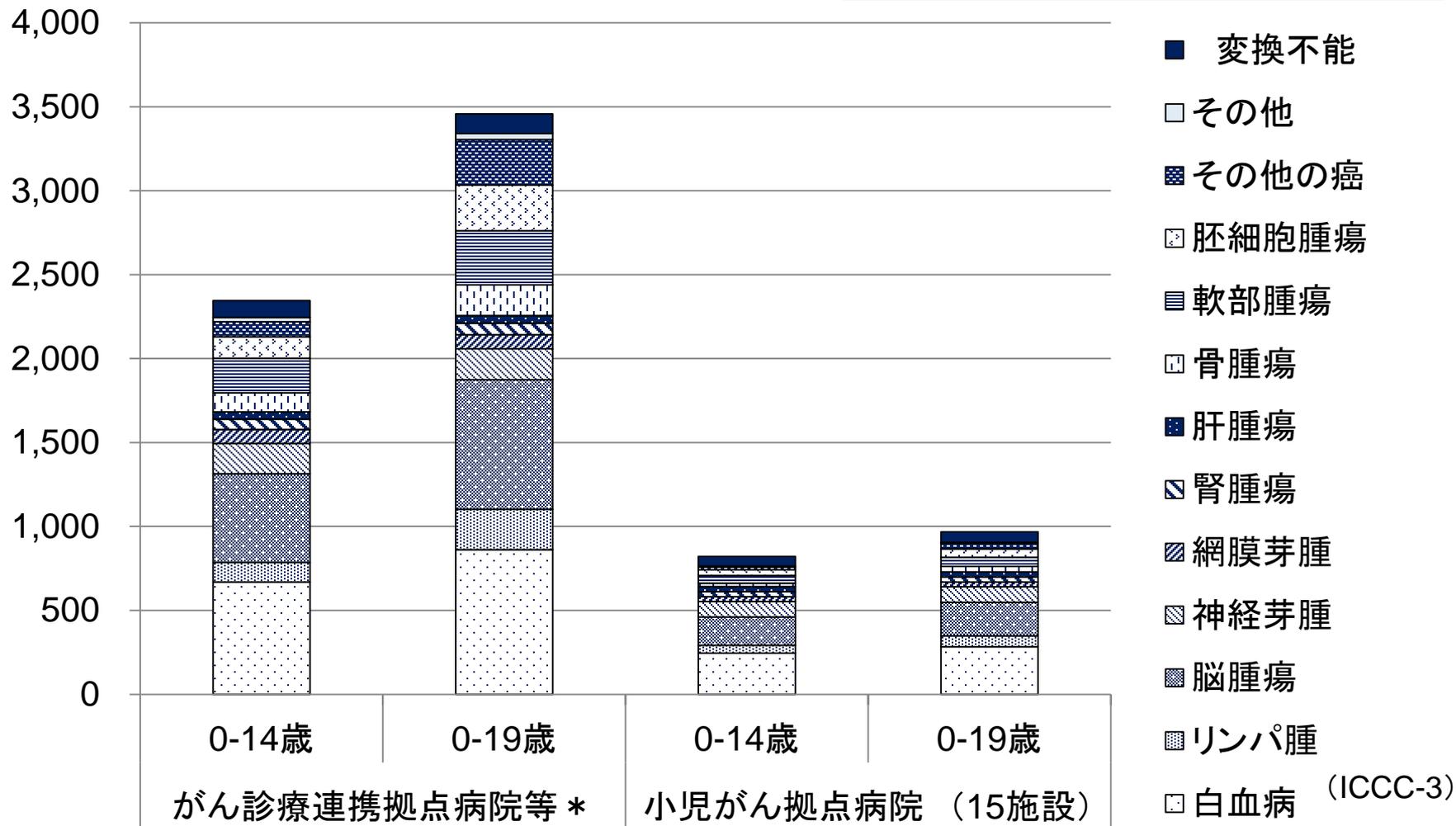
がん診療連携拠点病院等

全国集計：がん診療連携拠点病院

院内がん登録 2015年全国集計：報告書抜粋(腫瘍情報)

(件) **小児がん(20歳未満、症例区分8除く)**

全国集計：小児がん拠点病院



* 小児がん拠点病院にも指定されている9施設を含む

【報告書 p.85-87】



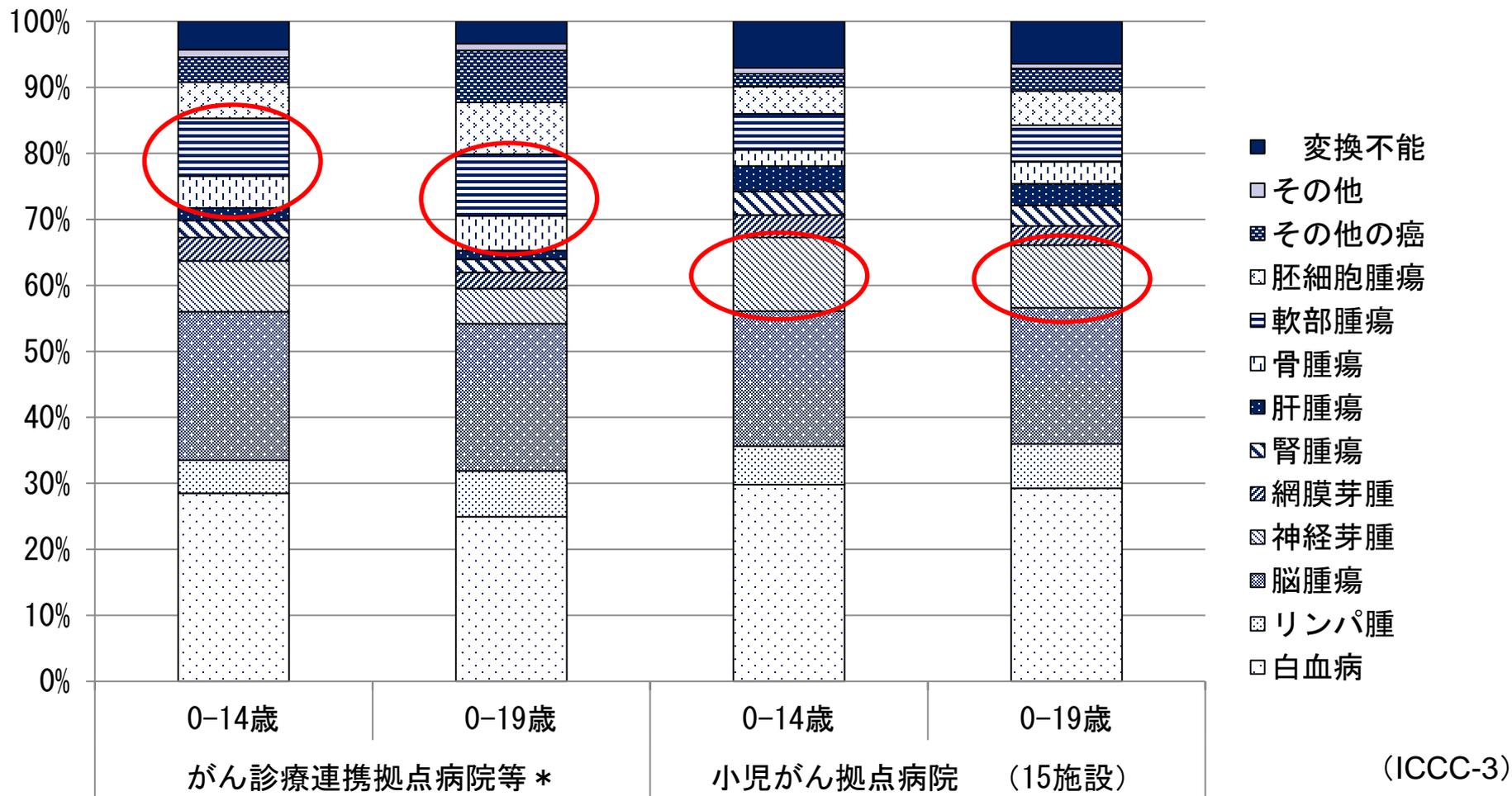
がん診療連携拠点病院等

全国集計：がん診療連携拠点病院

院内がん登録 2015年全国集計：報告書抜粋(腫瘍情報)

小児がん(20歳未満、症例区分8除く)

全国集計：小児がん拠点病院



* 小児がん拠点病院にも指定されている9施設を含む

【報告書 p.85-87】



がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

全国集計:がん診療連携拠点病院

全国集計:小児がん拠点病院

- ▶がん診療連携拠点病院では、小児がん拠点病院と比較して、骨腫瘍や軟部腫瘍の登録割合がやや多い
⇒骨腫瘍に含まれる骨肉腫は10歳代、特に10代後半が多い
整形外科等を受診されているためか
- ▶小児がん拠点病院では、神経芽腫の登録割合がやや多い
⇒診断年齢は、0歳が最も多く、次いで3歳前後が多い
小児専門病院の受診される患者さんが多いためか



がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

全国集計：がん診療連携拠点病院

特別集計
高齢者のがん

特別集計：高齢者のがん

● 目的

高齢化が進む我が国における高齢者のがん治療状況の把握

● 対象

自施設で初回治療開始された例

5部位と食道、膵臓、前立腺、子宮頸部、子宮内膜、膀胱、甲状腺の癌腫
診断時の年齢が40歳以上

新生物＜腫瘍＞の性状コード2,3

● 集計方法

年齢階級別UICC TNM分類総合ステージ分布

年齢階級・UICC TNM分類総合ステージ別に治療方法を集計

- * 総合ステージとは、観血的治療実施例は術後病理学的ステージを用い、
実施していない場合は治療前ステージを用いて治療開始時点の病期を示す
但し、肝は取扱い規約分類治療前ステージに基づく集計結果



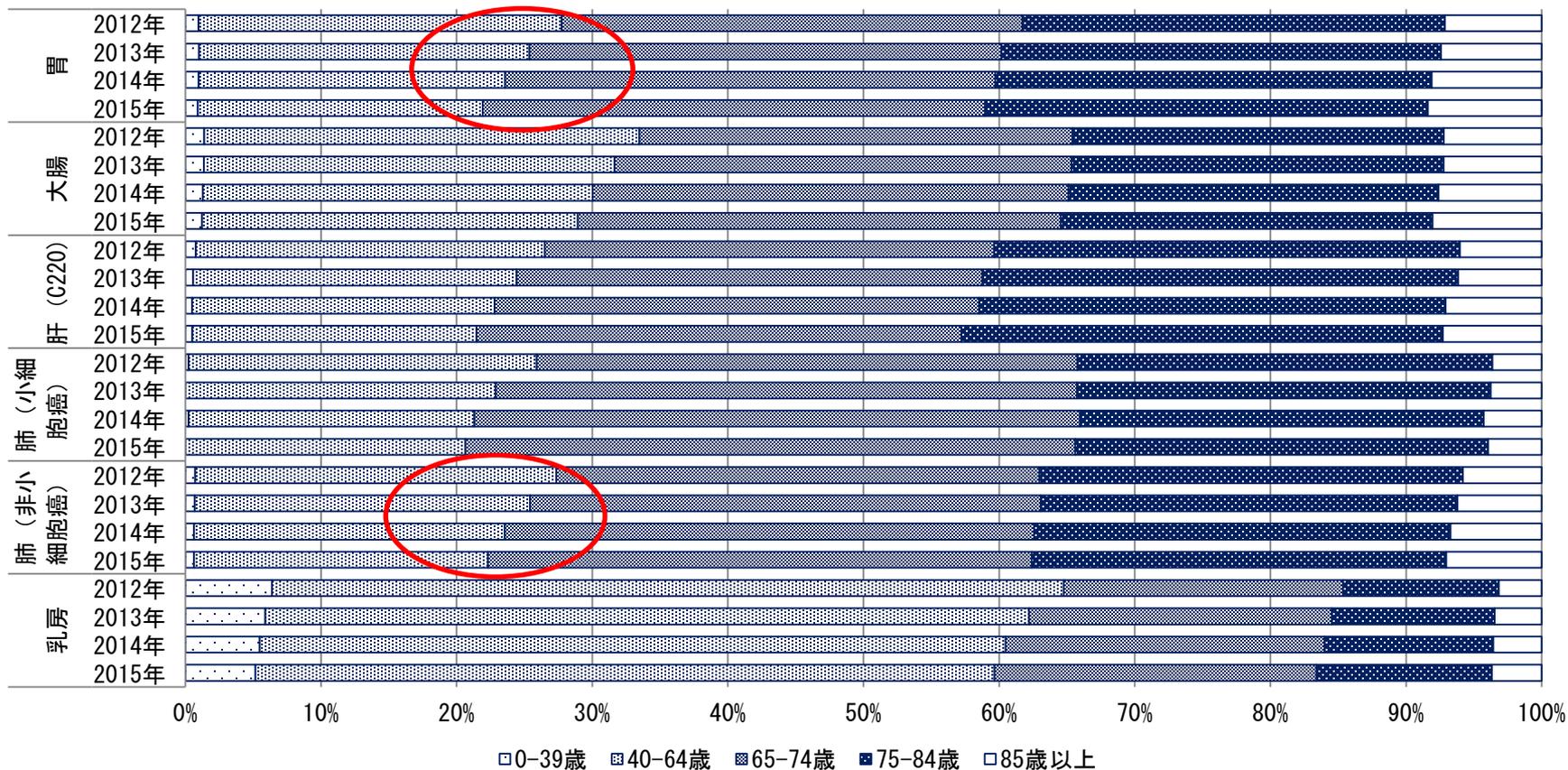
がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

全国集計：がん診療連携拠点病院

特別集計
高齢者のがん

年齢階級別登録数の割合：自施設初回治療開始例、癌腫

65歳未満の登録割合の減少、診療しているがん患者さんの高齢化が進む





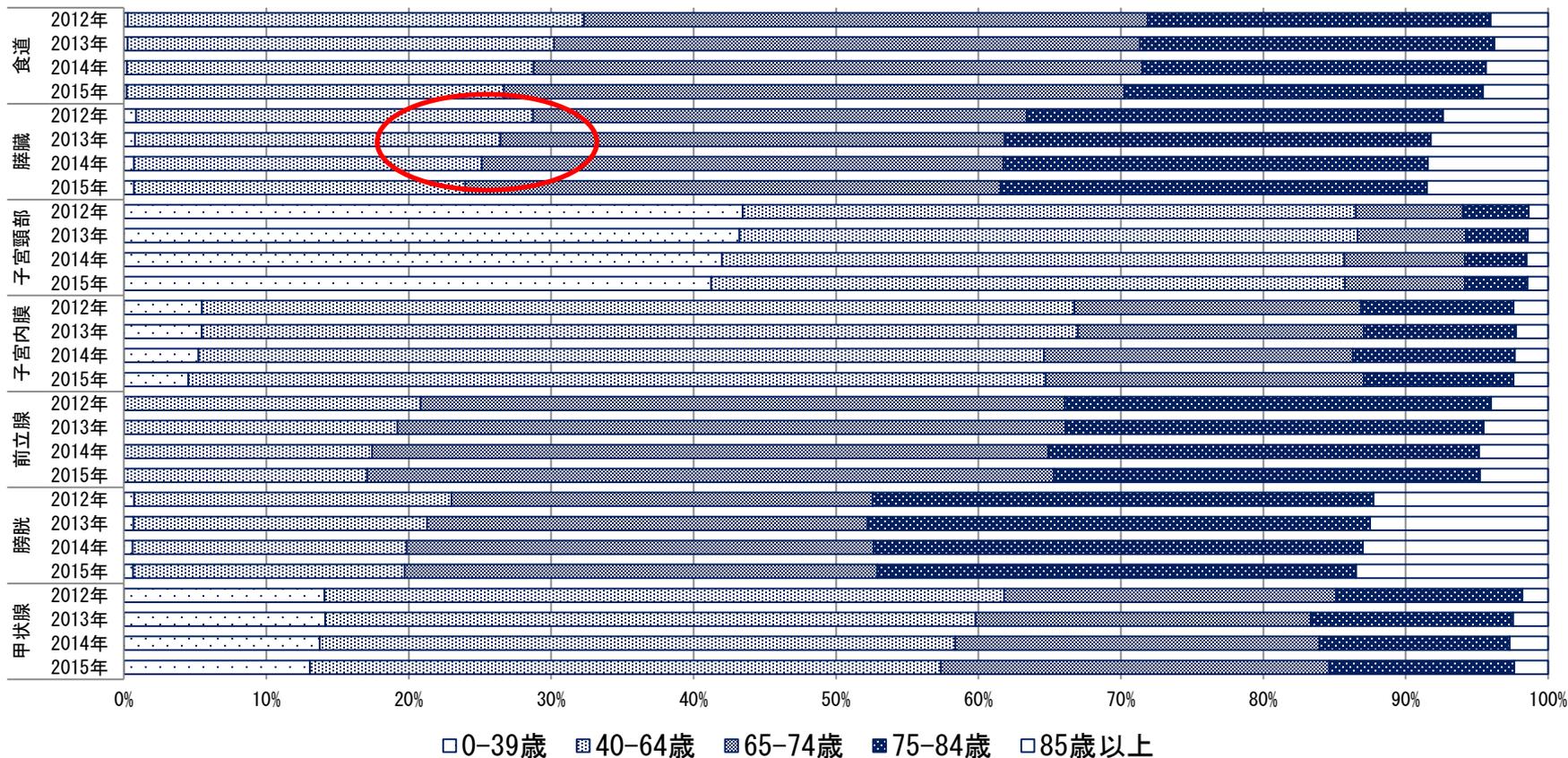
がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

全国集計：がん診療連携拠点病院

特別集計
高齢者のがん

年齢階級別登録数の割合：自施設初回治療開始例、癌腫

65歳未満の登録割合の減少(子宮頸部40歳未満が若干減少)、
診療しているがん患者さんの高齢化が進む





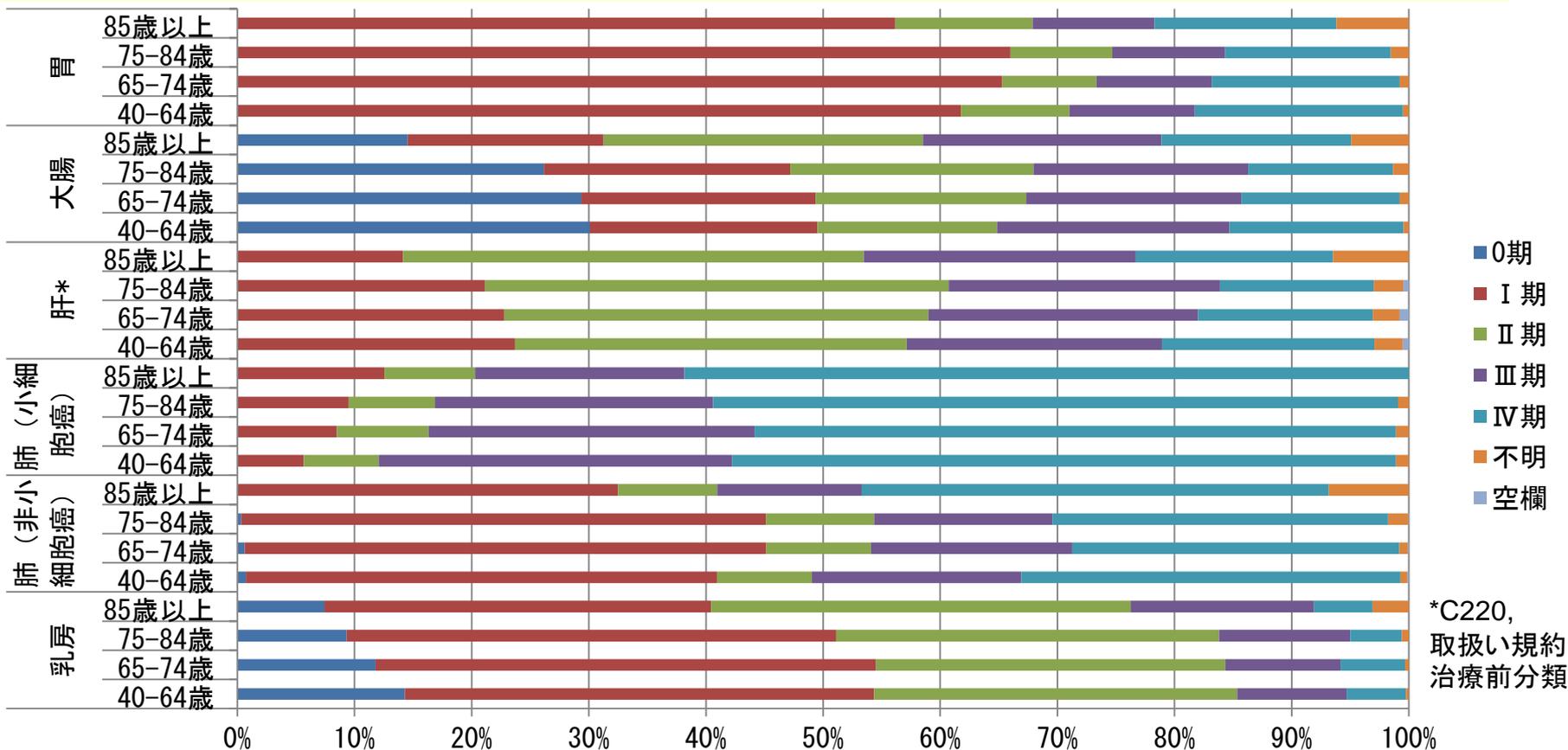
がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

全国集計：がん診療連携拠点病院

特別集計
高齢者のがん

主要5部位UICC TNM分類総合ステージ分布：自施設初回治療開始例、癌腫（2015年）

2012-2015年で臨床病期分布に大きな経時的変化は認めず、
年齢が高いほど比較的進んだ病期の登録が多い傾向



*C220, 取扱い規約治療前分類



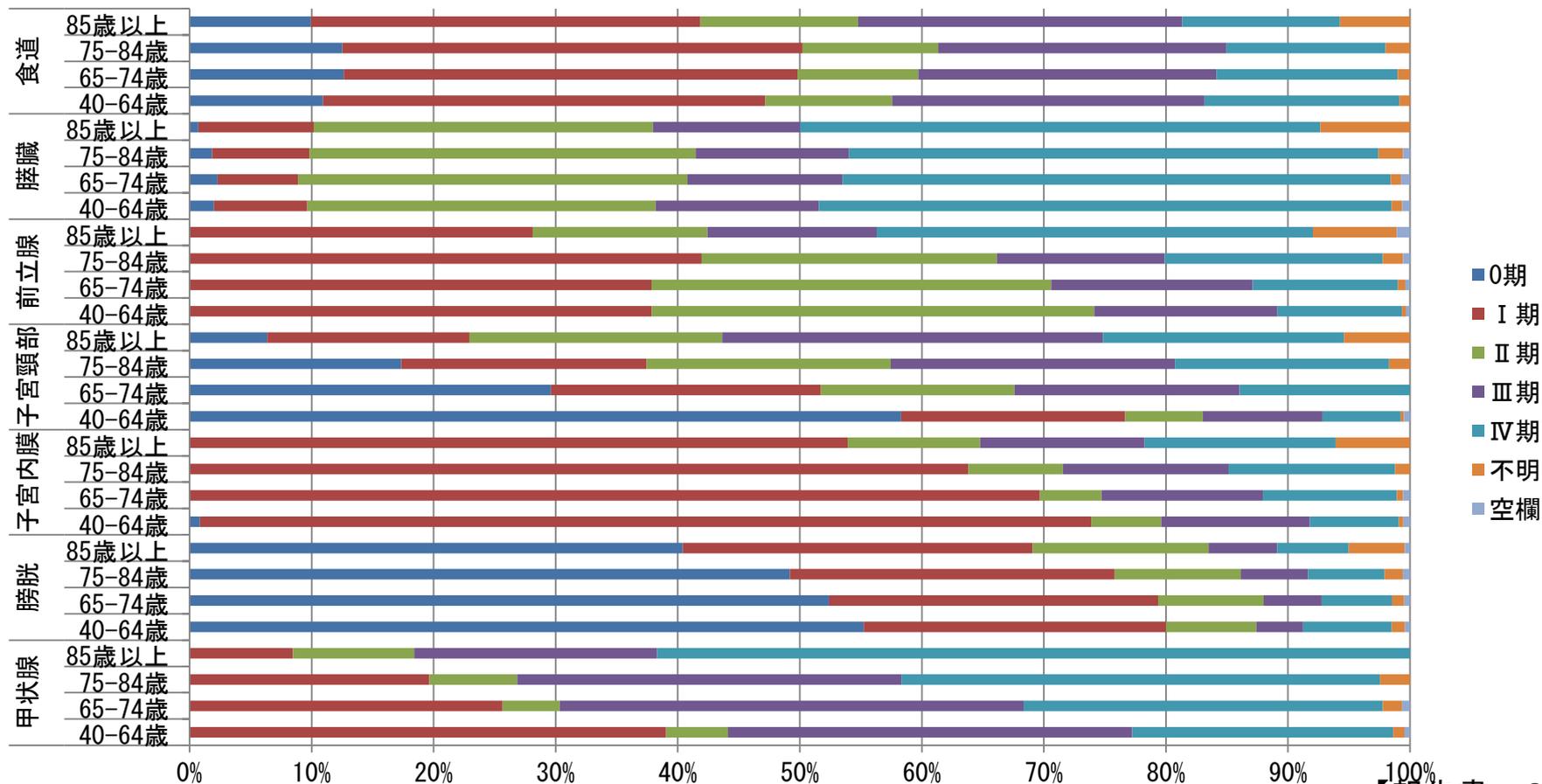
がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

全国集計：がん診療連携拠点病院

特別集計
高齢者のがん

UICC TNM分類総合ステージ分布：自施設初回治療開始例、癌腫、2015年

2012-2015年で食道、膵臓、前立腺、子宮内膜、甲状腺で病期分布に大きな経時的変動なし
年齢が高いほど、比較的進んだ病期の登録割合が多い





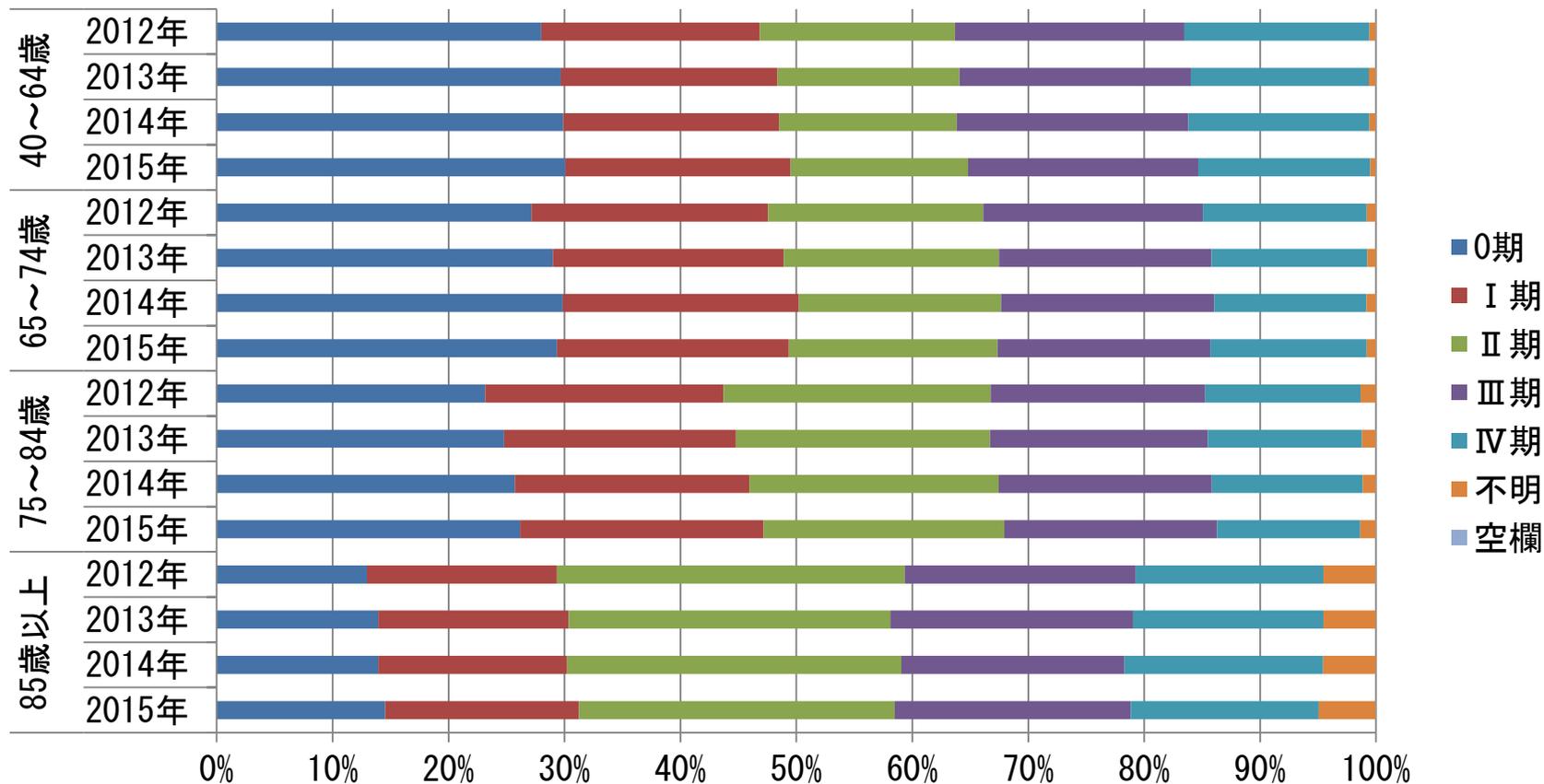
がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

全国集計：がん診療連携拠点病院

特別集計
高齢者のがん

【大腸】年齢別UICC TNM分類総合ステージ分布の経年傾向

2012-2015年で、年齢階級別の病期分布に大きな経時的変動なし





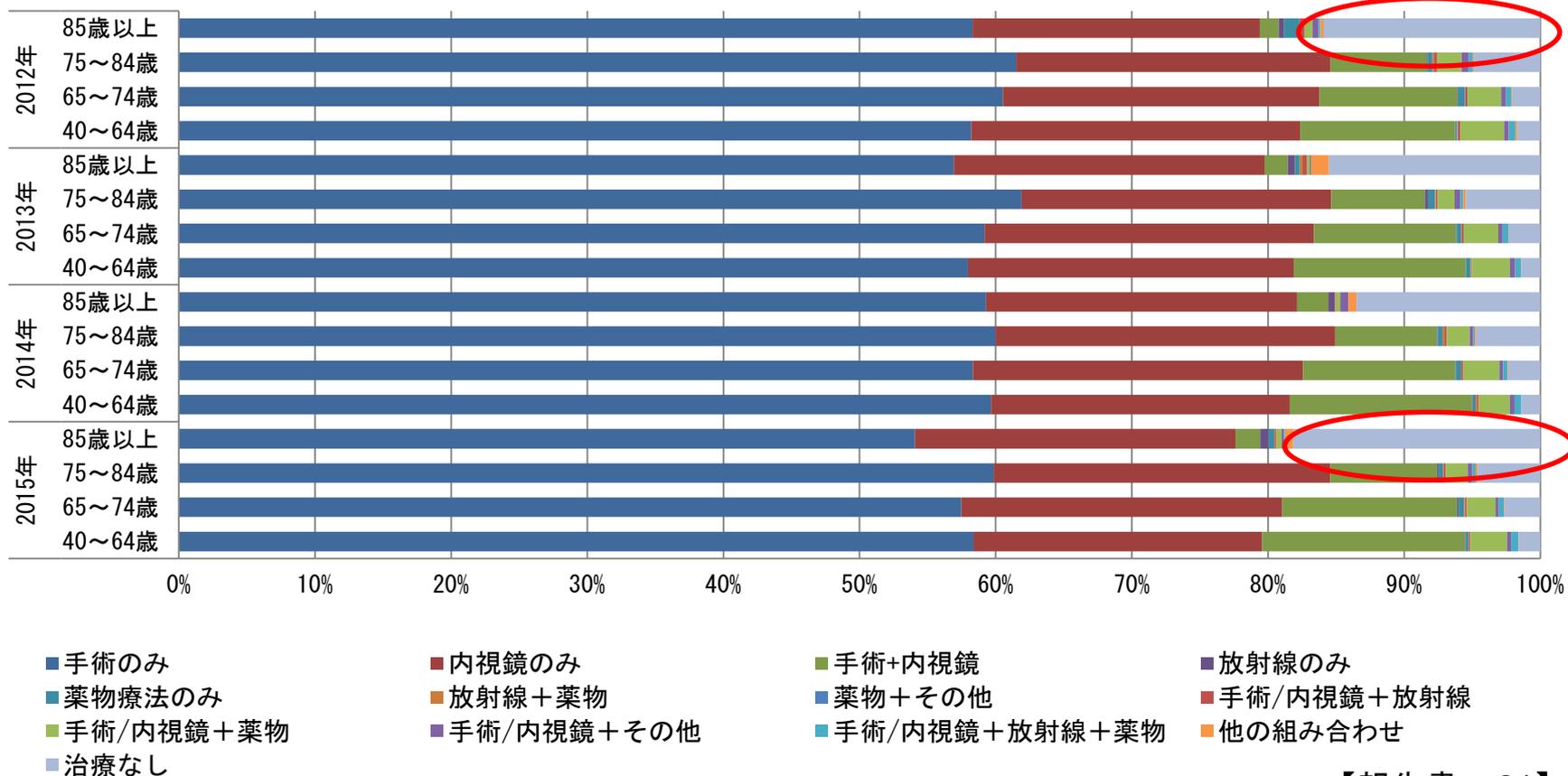
がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

全国集計：がん診療連携拠点病院

特別集計
高齢者のがん

【大腸Ⅰ期】年齢階級別UICC TNM分類総合ステージ別治療方法：自施設初回治療開始、癌腫、40歳以上

他の年代と比較し85歳以上の治療なしが多く、
2012年以降わずかだが増加傾向





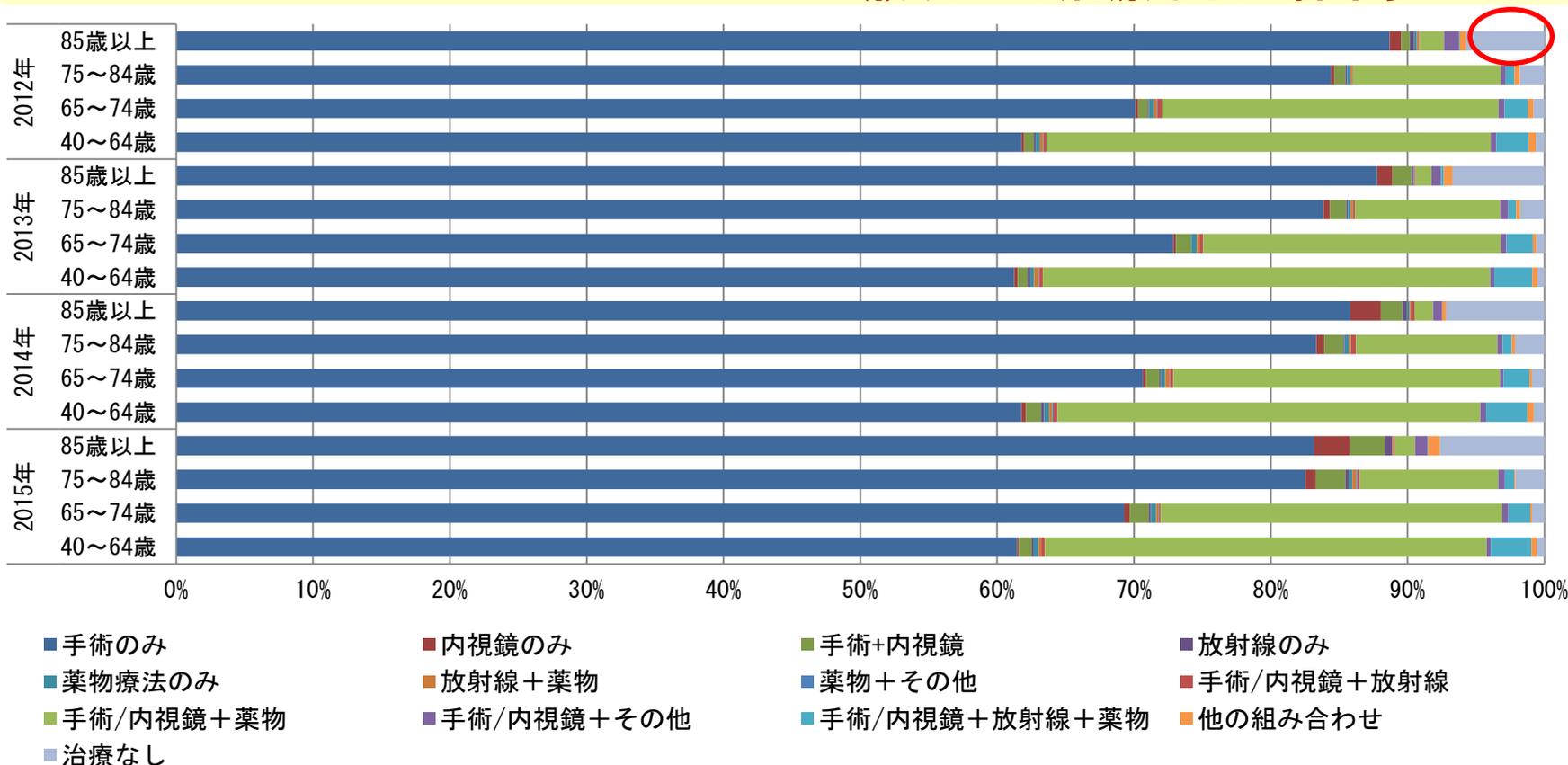
がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

全国集計：がん診療連携拠点病院

特別集計
高齢者のがん

【大腸Ⅱ期】年齢階級別UICC TNM分類総合ステージ別治療方法：自施設初回治療開始、癌腫、40歳以上

2012-2015年で治療傾向に大きな経時的変化はほとんどない、
85歳以上の治療なしが若干多い





がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

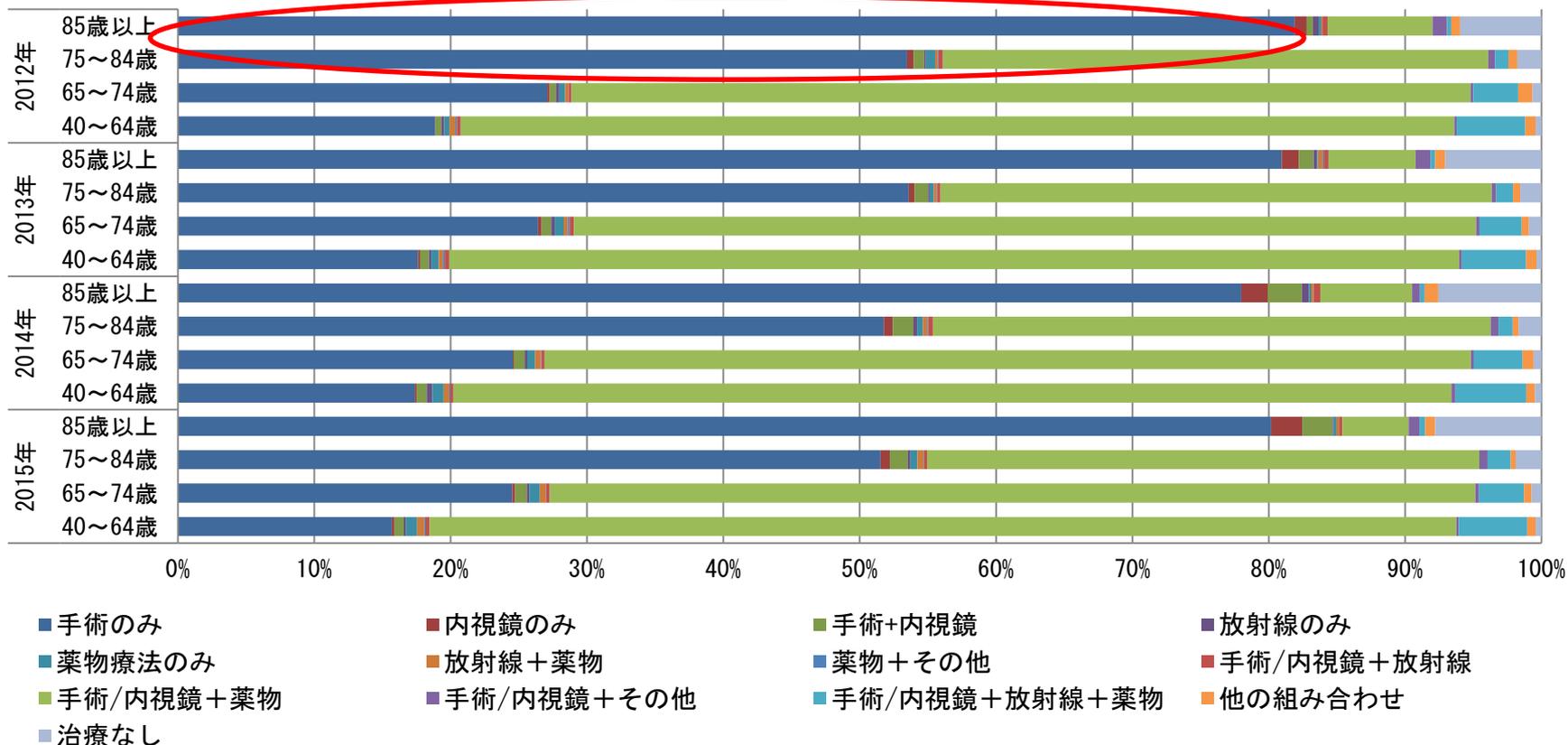
全国集計：がん診療連携拠点病院

特別集計
高齢者のがん

【大腸Ⅲ期】年齢階級別UICC TNM分類総合ステージ別治療方法：自施設初回治療開始、癌腫、40歳以上

経年的な変化はほとんどないが、

75歳以上で、手術のみが大幅増、治療なしも少ないながら増加





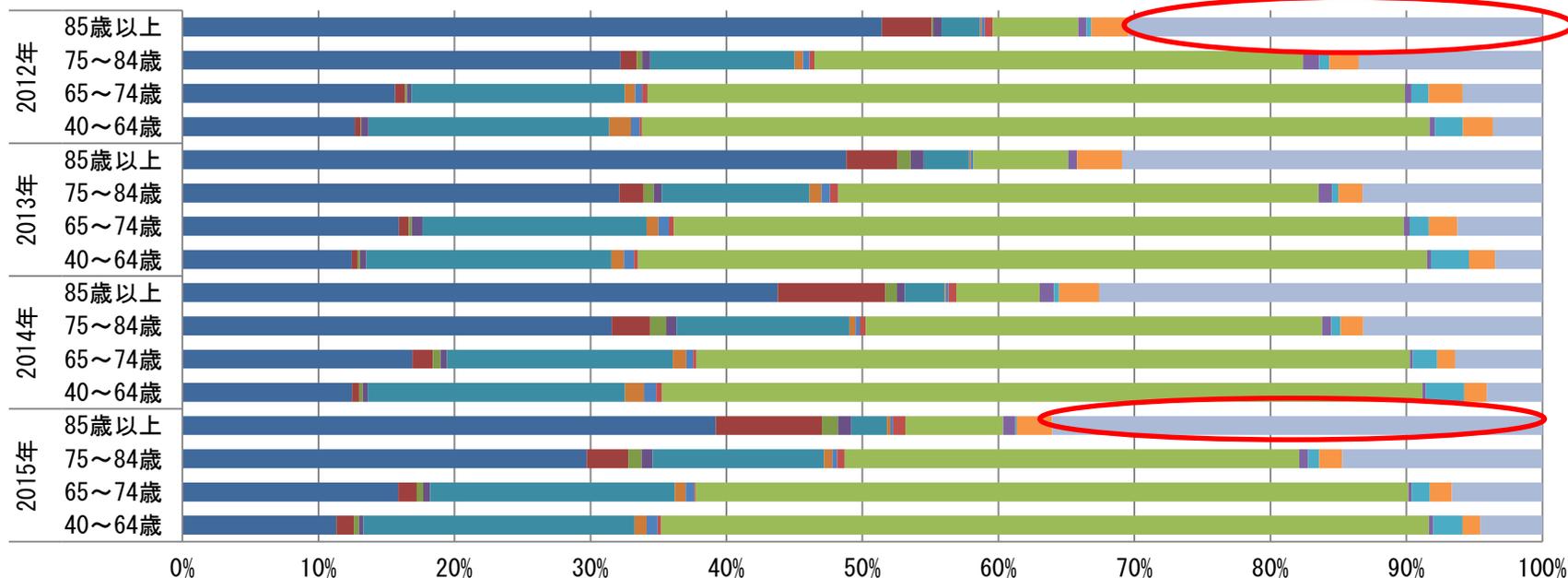
がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

全国集計：がん診療連携拠点病院

特別集計
高齢者のがん

【大腸Ⅳ期】年齢階級別UICC TNM分類治療前ステージ別治療方法：自施設初回治療開始、癌腫、40歳以上

他の年代と比較し85歳以上で治療なしが多く、
2012年以降、徐々に増加傾向



- 手術のみ
- 内視鏡のみ
- 手術+内視鏡
- 放射線のみ
- 薬物療法のみ
- 放射線+薬物
- 手術+内視鏡+薬物
- 手術/内視鏡+放射線
- 手術+内視鏡+その他
- 手術/内視鏡+放射線+薬物
- 他の組み合わせ
- 治療なし



がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2015年全国集計

全国集計：がん診療連携拠点病院

特別集計
高齢者のがん

- ▶がん診療連携拠点病院全体で、高齢のがん患者さんが増加
- ▶75歳以上では、併存疾患の有無、全身状態、患者や家族の意向から、積極的な治療の実施を差し控える傾向が伺える
 - ⇒高齢者への治療は科学的根拠が少なく、副作用への懸念が大きい
身体への負担が少なく、健康や生活レベルの回復見込みがある治療を希望
高齢者への治療においては、**患者の状態による個別性の考慮が必要**
例：大腸がんで腸閉塞がある場合は、患者さんが食事がとれるように手術をするが、
食事が摂取可能な患者さんでは、患者さんや家族の意向から手術をしないという選択肢もある
- ▶患者さんのライフステージに応じて最適な治療を探ることが重要か

謝辞

院内がん登録は、

- 全国のがん診療連携拠点病院及び院内がん登録をされているがん診療施設、小児がん拠点病院等の協力のもと実施されています
- 院内がん登録の集計・公表方針等については、都道府県拠点病院がん登録部会医師委員・県登録部会委員の先生方やがん登録実務者のご協力のもと、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会において検討しています
- 院内がん登録実施に当たり、皆様のご協力に心よりお礼申し上げます